

1 入学までの紆余曲折

1965年3月に知念高校を卒業し、4月には琉球大学法文学部経済学科入学。しかし、前期終了の9月末に退学。外国航路の航海士になる夢にチャレンジするため、国費留学の「航海」を受験することにした。

12月上旬に国費の1次試験を受け、万一に備えて琉大の数学科にも出願した。数学科にしたのは、前期在学中にたまたま教室を間違えて受講した数学の内容に興味を引かれたからという単純な理由による。

さて、1月10、11日に琉大を受験。国費の1次は合格し、1月23日に2次の面接。その結果、国費は落っこち琉大には合格したので、数学科に入学することになった。

2 数 学 科 の 思 い 出

高校までの数学に比べて数値計算よりも論理的なつながりを探究することが多い内容は、魅力的であった。招聘教授による集中講義は理解が難しく、レポート作成は仲間と一緒に悪戦苦闘した。

経済学科在学中に20単位を修得していたので、4年次後期は週1のゼミだけ。ゼミは中里治男先生ご指導のもと、「Linear Algebra」をテーマに4人で和やかに進めることができた。

数学科4年次の忘年会を終え、連れだって那覇の街から首里まで歩いて帰る道すがら、龍潭に差し掛かった所で、誰かが「泳ごう！」と言い出した。師走の寒風吹きすさぶ中、程なくして3名が龍潭で泳ぎだしたのは、若さのなせることだったか？……………。

さて、1970年3月に琉大を卒業し、すぐ教職に就いた。那覇高校を皮切りに母校の知念高校で定年を迎えるまで37年間の教職生活を過ごした。我が進路は紆余曲折を経て、ひょんなことから「数学」を専攻することになったが、いま振り返ると、「数学」を専攻し教職に就いて良かったと思う。多くの同僚や教え子に巡り会えたのもありがたい。

3 サークル活動

入学してすぐバスケットボール部に入ったものの、体育科以外は私とあとひとりだけ。体育専門の彼らについて行けず、ふたりはいつも女子の練習相手。それでも、私にとってはしんどかった。

それまで抱いていた「女は弱し」という先入観は、すっかり吹っ飛んでしまった。翌朝、男子寮から

キャンパスに向かう図書館脇の急階段を上るのは大層きつかった。

…………というわけで、4か月ほどであえなく落ちこぼれてしまった次第。



次は、ふる里^{おう}奥武島の風俗習慣を記録にとどめたいとの思いで民俗研究クラブに入った。最初のフィールドワークは久高島のイザイホーで、島の人々が行事にかける熱き思いに感動を覚えた。沖縄本島をはじめ、久米島、粟国島、西表島、宮城島、宮古島などで計 13 回の民俗調査に参加。公民館や民家に宿泊して聞き取り調査をした。西表島^{そない}祖納では、村人と刺し網漁に同行する機会もあった。久志村^{ていま}字汀間の調査でハーミヌホーガイのオモロを、^{そら}諳んじている^{ニーガン}根神の松田カマドさんから採録できた際には大感激。オモロは、解釈も含め『南島歌謡大成』（角川書店刊）に引用されている。お世話になった方々や寝食を共にした仲間とのふれあいは、心和む青春の思い出である。

4 アルバイト

親からの仕送りだけを当てにはできない身にとって、アルバイトは頼みの綱だ。友人の^{つて}伝手で首里高生の家庭教師をすることができた。バイト代は2時間ずつの週3日で月25\$（2食付きの下宿代が16\$）、台湾旅行の際には餞別、年末にはボーナスまでいただき、当時としては恵まれていた。

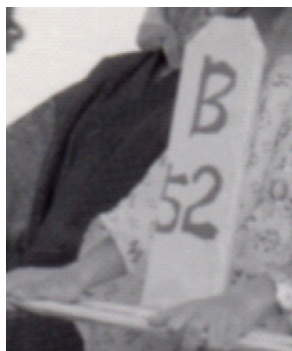
休日には、那覇港^{にやく}で荷役作業のチェッカー（検数員）や交差点での交通量調査などもやった。時給が一番高かったのは那覇港での袋詰めセメントの荷積み作業、また、某ビール会社主催「〇〇〇〇ビールの夕べ」と銘打ったパーティーの会場作成・接待のバイトは、後の楽しみがあった。

5 琉大祭

琉大祭で民俗研究クラブは、フィールドワークの成果を発表。

徹夜で準備に追われた。「ユタ」や

「^{マブヤグミ}魂込め」をテーマにしたこともある。前夜祭のパレードでは、嘉手納基地からベトナム戦争に出撃していたB52爆撃機への批判を込めて、「B52の葬式」をテーマに設定。B52の^{いはい}白位牌や^{がん}籠を仕立てて街を練り歩き、反戦平和を訴え



た。（1968年12月6日）

6 祖国復帰運動・学生運動

当時の沖縄は、琉球列島米国民政府の統治下。本土に行くにもパスポートが必要だし、通貨は米ドルであった。それに、米軍や米兵による事故や犯罪が多発し、日本政府による施政権を求めて祖国復帰運動や学生運動が活発。与儀公園では頻繁に決起大会が開かれ、多くの琉大生が参加。与儀公園からひめゆり通り・国際通りを経て琉球政府前までシュプレヒコールしながらのデモ行進は恒例であった。

教公二法阻止闘争の立法院包囲行動に参加したこともある。1967年2月1日午前4時ごろ、バスの始発には早いので、友人たちと共に肌寒い中を首里から立法院まで歩き、包囲陣に加わって警官隊と対峙したのも「今は昔の話」である。

7 雑感

現在と比べたら、キャンパスはかなり手狭であった。しかし、そのおかげで他学科の学生や先輩後輩とも

顔を合わせるチャンスが多いという利点があった。当時は、女子寮・那覇看護学校・キリ短との交歓会、サークルや学科主催のダンスパーティーも盛んであった。琉大で過ごした4年間は、我が人生に大きな影響を与えた貴重な青春時代であった。感謝！

[2016年1月30日・69歳]